

未だ受け入れられない事実・・・敗北！！

見栄っ張りな TMPCWA は、今年 2 月 16 日に行われた承認投票の本質的な問題を無理に逸脱させようとしている。投票は偽りで、自分たちが勝利したと言っている TMPCLO のリーダーたちは頭がおかしいのだそうだ。

TMPCWA の迷惑なリーダーたちは投票が偽りだと言いながら、ではなぜ投票に参加したのか？「エド・クベロよ、投票が少し遅れたのは、お前が承認投票への同意の証明となる署名をすぐにしなかったからだ。」TMPCLO 支持という集計結果を見た彼らは、自らが区別した 121 名のチャレンジ票の開票を待たずして、ただちに正式な抗議声明を出した。彼らの抗議内容を以下にあげると・・・

不正行為が広く行なわれた 「証拠を見せよ」

承認投票は明らかに無効投票である 「おかしなことを言うものだ。全交渉単位の 94% が承認投票に参加したというのに、無効とはどういうことか」

マニラ首都圏労働雇用省の管轄外となるリージョン IV に訴訟を移す 「訴訟を移せたとして、TMPCLO424 票・TMPCWA237 票という投票結果をなぜ地方事務局が変えることができるのか？」

など他多数・・・。

国内外で投票が行なわれるたびに、全てが不正だと言って敗者がいないということになると、それはもう大変である。ここから立証されることと言えば、彼らは数を数えることができないか、理解力に欠けているか、もしくは労働法のプロセスを本当にわかってないか、ということではなからうか？恐らくエド・クベロが事実を受け入れられないのは、彼と彼の熱心な支援者が敗者となり、同志である労働者たちに災いをもたらす存在として労働運動の歴史に記されたからであろう！！

承認投票により解決へとつなげよう！

投票当日、一般従業員の大多数が支持を表明し、労使協議（CBA）の場で我々の階級の代表となるべく TMPCLO を選んでくれたことに対し、執行委員一同心から感謝している。これは新たな信頼ある組合を目指す TMPCLO にとって第一歩となった。

この結果はまだ最終的に認められたものではなく、この結果に基づいて4月5日に審問が行われた中、承認投票をめぐる訴えが提出され、カラボカル調停仲裁官（法定の仲裁官）により10日（暦上で10日）以内に判決もしくは解決策が出されることになった。間近に迫っているこの勝利は、トヨタの一般従業員1人1人が一致団結して行動した賜物である。仲間の皆さん、本当にありがとう！！

本物の外国人による占領計画・・・

TMPCLOの組合員は、執行委員が**外国**の国際金属労連（IMF）からの招待を受け入れる前から会議の場を持ち、以下の事柄について再確認していた。

- a) 組合としてのTMPCLOに対する認識
- b) 経営陣とのCBA
- c) 原職復帰（然るべき裁判所による判決後）

彼らは我々の意見を聞き終えると、我々が述べた見解については直ちに保留とした。これは、彼らが我々の母国に来る前から、解雇されたTMPCWA組合員を支援し**原職復帰**を最優先議題とすることを既に決めていたからである。また、トヨタに対する世界的な反対運動を引き続き行うとの脅しも受けた。「**彼らは長い間反対運動をしてきたが、我々は揺らぐことなく踏み留まっている。だから何も恐れることはない！**」彼らの望みは、我々を黙らせ彼らの提案をのませることである。「**ちょっと待って。この外国人たちは、フィリピン人の土地にいるということを忘れてほしい！**」またそこでは、TMPCLOとTMPCWAが、1つのCBAの場で経営陣と交渉するための共同合意を締結することに賛成したという発表まで行われた！果たして経営陣は、1つのCBAに2つの組合がテーブルにつくことを認めるだろうか？法律では、承認が必要なのは1つの団体だけでよく、経営側に認められたものこそがCBAのテーブルにつく権利があると定められている。**クベロという労働者の哀れなこと！**フィリピンの法律に対する理解や知識が足りない味方しか得られないとは！「だから**本物の外国人**と言っているのだ！」

外国人から成るIMFについて不思議に思うことがもう1つある・・・ILO（国際労働機関）は次のように明確な勧告を出している。

「労働者の原職復帰。もし原職復帰が不可能ならば、関係する労働者に対し適当な補償が支払われるべきである。」

経営陣が適当な補償を申し出ているというのに、IMFとTMPCWAはなぜ依然として原職

復帰を主張するのか？ILOの勧告に従ったものであるというのに。それに加えて、外国で働けるようにと訓練の申し出まであるのだ。(全くうらやましい話である。我々も外国に行けるよう、この工場にいるTMに対しても訓練があればいいのに。)TMPCWAは敗北を受け入れられず、クベロのプライドを傷つけられたために、工場の静かな状況を混乱させようと画策しているのかもしれない。

自らも当事者である国内の問題を解決するためにTMPCWAが頼りにしているのが外国人だというのは悲しいことである。これは、フィリピンで定められた法律に従いながら自分たちの階級を守り戦う能力がTMPCWAにないからなのか？それとも、我々の国の法律に定められたプロセスを無視しているからなのだろうか？

我々が思い起こす限りでは、トヨタの労働者が頼りにしているのは、自分たち労働者に他ならない。我々の望みや夢は、1つの目標に向かって我々が一致団結すれば必ず実現される。トヨタ労働者の新たな団結を強固なものとしよう！自由な思想と行動を実現させよう！民主的で責任ある労働組合主義を推し進めよう！フィリピン人労働者の利益ではなく、外国人びいきのイデオロギーを推し進めようと目論む反労働者たちとは、縁を切ろう！

トヨタ労働者万歳！

新たな信頼ある組合を設立しよう！

TMPCLO万歳！

TMPCLO

2006年4月10日 2006年度 No.11